平成３０年１０月１４日

里山の果実と種子

～　命を伝える植物たちの工夫　～　NPO 法人四季の森里山研究会　　野口、宮下、倉重

今日は何の日 ？　二十四節気・七十二候　寒露　10 月 8 日~22 日　～　露が冷たく感じられる頃　～

〇10 月 8 日～12 日　初候　雁来る。(ガンきたる)　〇10 月 13 日～17 日　次候　菊花開く(きっかひらく)

〇10 月 18 日～22 日　末候　蟲斯戸に在り(キリギリス　とにあり)

多くの植物は春に花を咲かせ、果実や種子を成長させてその命をつなげようとしています。猛暑の夏を過ごした四季の森公園の生き物たちの実りの秋の様子は　どのようになっているのでしょうか。一方、秋の季節を選んで花を咲かせている植物もいます。 ところで、ほとんどを土の中で暮らしている不思議な生き物　モグラは、実りの秋をどのように過ごしているのでしょうか。モグラ塚を観察してみましょう。

果実と種子

裸子植物では、マツ類のように果実は作られないため　種子はむき出しになりますが、カキなどのような被子植物は、果肉に種子を含み種子が育つようになっていたり、結果的に動物などに食べられたりすることで種子の散布をうながす役割を持っています。(カキの種子のつくり、液果、乾果、集合果、複合果・・)

種子散布のいろいろ

A) 重力・自動散布⇒　果実や種子が成熟すると自然落下し、転がるなどして近くに散らばります。

B) 被食散布　⇒　液質で甘い果肉を種子ごと野鳥や哺乳動物などに食べてもらい、より遠くへ散布します。

C) 付着散布　⇒　動物の毛や人の衣服などに果実や種子が付着して、はなれた場所に散布します。

D) 風散布　　⇒　風に流されて遠くへ散布します。

E) 水流散布　⇒　植物が、水流や海流に乗り運ばれます。種子に水が浸みこまず、浮いて移動します。

問題　次の植物の散布は、どれにあたるでしょう。上記の散布の記号を(　　)の中に入れてみましょう。

・ガマ(　)・クリ(　)・ヤマユリ(　)　・ミズヒキ(　)　・ヨウシュヤマゴボウ(　)

有毒植物とは

毒の成分は、アルカロイド、ソラニン、サポニンなどがあります。成分により　嘔吐、下痢、神経麻痺、痙攣などの症状が現れるそうですが、呼吸障害、心臓麻痺から死亡にいたる重篤なケースもあります。野鳥や哺乳動物の中には、これらの毒を体内に取り込んでも　死に至ることはほとんどありません。一方、毒のある食草を食べ体内に毒を貯め、外敵の野鳥から身を守るという　ジャコウアゲハやアサギマダラなどの変わった幼虫もいます。

<公園で見られる有毒植物の一例>

{ オシロイバナ、ヒガンバナ、ツリフネソウ、ウマノスズクサ、ヨウシュヤマゴボウなど}

モグラの生態

① モグラ塚ってなぁに ？　モグラの目は見える？　見えない？

② モグラは大食漢だって本当？

③ モグラは何処から来たの？

④ コウベモグラとアズマモグラどっちが強い？

⑤ 大変珍しいモグラ･･･米国やカナダに棲息する「ホシバナモグラ」見たことある？

11 月 11 日(日) 来月のテーマ　　～　今楽しめる里山の紅葉　～